ヤスクニ通信　No.275　2023 年 2 月 17 日　例会　毎月第3金曜　7:00～9:00pm（休日の時第 4 金）
発行　靖国神社国営化反対福音主義キリスト者の集い（略称「つどい」）　代表・星出卓也（Tel/Fax042-458-0251）
事務局　西東京市柳沢 2-11-13 西武柳沢キリスト教会気付　HP　https://yasukuninotsudoi.christian.jp/

ヤスクニ・レポ　275

安保関連三文書について

柴田智悦牧師（日本同盟基督教団横浜上野町教会）

「国家安全保障戦略」Ⅰ　策定の趣旨

安保関連 3 文書に対する声明は各方面から出されているが、実際にこの文書には何が書かれているのか。まずは、この 3 文書全体の前提となる「国家安全保障戦略」の項目Ⅰ　策定の趣旨から、探ってみることにする。（下線は全て筆者）

（1）「国際社会は時代を画する変化に直面している。グローバリゼーションと相互依存のみによって国際社会の平和と発展は保証されないことが、改めて明らかになった。自由で開かれた安定的な国際秩序は、・・・重大な挑戦に晒されている。」

このような危機感に基づいてこの安保関連 3 文書が策定されたのである。しかし、「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。」という憲法前文にまず立って、国際社会の平和と発展に努力すべきではないのか。

（2）「普遍的価値を共有しない一部の国家は、独自の歴史観・価値観に基づき、既存の国際秩序の修正を図ろうとする動きを見せている。」「普遍的価値を共有しない一部の国家は、経済と科学技術を独自の手法で急速に発展させ、一部の分野では、学問の自由や市場経済原理を擁護してきた国家よりも優位に立つようになってきている。これらは、既存の国際秩序に挑戦する動きであり、国際関係において地政学的競争が激化している。」「（途上国の）中には普遍的価値を共有しない一部の国家に追随する国も出てきている。」

イギリスのエコノミスト・インテリジェンス・ユニット研究所が 167 カ国を対象にした民主主義指数によれば、2022 年における非民主主義国家数は 95 カ国(57%)である。また、英オックスフォード大の研究チームが運営する国際統計サイト「Our World in Data」によると、2021 年において、世界人口の 71%が独裁に分類される国に住んでおり、民主主義人口は 29%に過ぎないと発表されている。「普遍的価値を共有しない一部の国家」とはどの国のことか。そもそも民主主義国家でありながら、世界で戦争を繰り広げているアメリカや、パレスチナ人に対する不当な排除を行なっているイスラエルは、「普遍的価値を共有する国家」と言えるのだろうか。憲法９条の「専守防衛」に明確に違反し、戦後の憲法解釈を大きく変えた「平和安全法制」（安保法制）による集団的自衛権行使容認、そしてそれを受けて策定された安保関連 3 文書を、国会の議論もなく、選挙で民意を問うこともせず、閣議決定で強行した日本も、果たして民主主義国家と言えるのだろうか。「人類普遍の原理」である国民主権に基く憲法に「反する一切の憲法、法令及び詔勅」は「排除」されるべきものである。

（3）「我が国は戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面している。」「国際秩序を形作るルールの根幹がいとも簡単に破られた。同様の深刻な事態が、将来、インド太平洋地域、とりわけ東アジアにおいて発生する可能性は排除されない。」「また、我が国周辺では、・・・力による一方的な現状変更の圧力が高まっている。」「有事と平時の境目はますます曖昧になってきている。」「軍事と非軍事の分野の境目も曖昧になっている。」「このような世界の歴史の転換期において、我が国は戦後最も厳しく複雑な安全保障環境のただ中にある。その中において防衛力の抜本的強化をはじめとして、最悪の事態をも見据えた備えを盤石のものとし、我が国の平和と安全、繁栄、国民の安全、国際社会との共存共栄を含む我が国の国益を守っていかなければならない。そのために、我が国はまず、我が国に望ましい安全保障環境を能動的に創出するための力強い外交を展開する。」

「日本国民は、・・・政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起こることのないやうにすることを決意し」た。現在日本が集団的自衛権行使によってアメリカの戦争に巻き込まれる可能性があるのは台湾有事だと言われているが、突然戦争が起こるはずはないのだから、そうならないための中国との外交をまず密にすべきである。しかも、仮にそのような事態

になり、中国との貿易が中止されることによる経済的混乱の回避や食糧の確保については何も語られていない。日本の経済のみならず、国民の生活そのものが立ち行かなくなるのは必至であるはずなのに。また、戦争には必ず死が伴うにもかかわらず、戦闘員、および非戦闘員の死についても語られていない。それは、想定している戦争が、あまりに非現実なことだからではないのか。その非現実性に基づく3文書の策定とはなんだろうか。

（4）「そして、自分の国は自分で守り抜ける防衛力を持つことは、そのような外交の地歩を固めるものとなる。」「こうした目標を達成するためには、・・・国家の対応を高次のレベルで統合させる戦略が必要である。このような視点に立ち、我が国の安全保障に関する最上位の政策文書となる国家安全保障戦略を定める。」「本戦略に基づく戦略的な指針と施策は、・・・戦後の我が国の安全保障政策を実践面から大きく転換するものである。」「国家としての力の発揮は国民の決意から始まる。」「本戦略を着実に実施していくためには、・・・国民の理解と協力を得て、国民が我が国の安全保障政策に自発的かつ主体的に参画できる環境を政府が整えることが不可欠である。」

つまり、「自分の国は自分で守り抜ける防衛力を持つ」ために「戦後の我が国の安全保障政策を実践面から大きく転換」し、その「実践」面においては、国民が自ら「決意」して力を発揮し、自ら「理解」して「協力」し、「我が国の安全保障政策に自発的かつ主体的に参画できる環境を政府が整え」るために「国家安全保障戦略を定め」たのである。したがって、「国家安全保障戦略」は、現代の「国家総動員法」と言えよう。

２０２３年１月２０日例会奨励
ヨハネの黙示録１５章２節「ガラスの海のほとりに」
星出卓也牧師（日本長老教会西武柳沢キリスト教会）

「**私は、火が混じった、ガラスの海のようなものを見た。**」とある「火が混じったガラスの海」とは、神の御目には世界の出来事は全て見通され、治められて、髪の毛一本や雀一羽が地に落ちることに至るまで、全てこの神の御手の中にあることを語っています。4章6節にも「ガラスの海」は次のように語られています。「**御座の前は、水晶に似た、ガラスの海のようであった。そして御座のあたり、御座の周りに、前もうしろも目で満ちた四つの生き物がいた。**」

前もうしろも目で満ちた四つの生き物とは、全てが神の御目の前にあり、神の御手の中にあり、私たちはそのような神の摂理が支配する世界の中に生かされていることを語っているものです。

この啓示はこの世に生きる神の子供たちに、大いなる励ましを送っています。13章が描く獣の支配は、神の子らの地上の命までも奪う権威が与えられ、ある者は信仰のゆえに地上のいのちも奪われることを語っています。獣を礼拝しない者は、市場で売ることも買うこともできなくなる。つまり、信仰のゆえに生活の術も奪われ、職を失い、生活に困窮するということです。この現実は、神の子供たちを恐れさせます。しかし2節は、この世はサタンの国でも獣の国でもなく、なお神の御手の中にある世界であり、全知全能の神の御目の前に全てが露わであると語っています。「火の混じったガラスの海」とあるように、神に敵対する者たちの支配も、神の御怒りの前にいつも露わにされているのです。神の支配を、この世の権力が知らなくても、神の御手はあらゆるものを支配し、神の審判は神の定めた時に速やかにやってきます。これが、この世界の本当の姿だと、2節の啓示は神の子供たちに語っています。

更に注目するべきは、「**獣とその像とその名を示す数字に打ち勝った人々が、神の竪琴を手にしてガラスの海のほとりに立っていた。**」とあることです。

獣が滅ぼされた時、初めて彼らは勝利者になるのではなく、彼らが御国の苦難と忍耐の中で地上を歩んでいても、彼らは既に勝利者だ、ということです。その証拠に「**神の立琴を手にして**」とあるように、彼らの心には神への賛美があふれています。それは、彼らにはこの世界の出来事の全てが「ガラスの海」であることを知っているからです。すべての出来事が神の御目の前にあり、神の支配の中にあるという、この世界の本当の姿を彼らは信じているからです。彼らは大いなる獣の脅かしの前に迫害の中を生きていたとしても、神の摂理を知り、神の審判を恐れ、神が共にいてくださることを知っているので、その心には神への賛美がいつもあふれているのです。

物質的困窮、生活の術を奪う不安。命の脅かし。辱めと迫害。これらを総動員しても、獣の支配は神の子供たちの賛美を奪うことができなかった。ここに獣に打ち勝った勝利者としての姿が証されています。勝利は神に、そして神を信じ続けた神の子供たちにあるということが証されています。